

平成 21 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470901248	事業の開始年月日	平成29年3月17日	
		指定年月日	平成29年3月1日	
法人名	医療法人 寛栄会			
事業所名	高齢者グループホーム カメリア壱番館			
所在地	(223-0057) 横浜市港北区新羽町3594-7			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成22年1月30日	評価結果 市町村受理日	平成22年5月7日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな環境の中のグループホームで、ご入居者は毎日の散歩で四季折々の花を見ながら季節を体感されています。食事は同法人の老人保健施設の管理栄養士が栄養面を考慮して作成したメニューを基に、ご入居者と一緒に地域の商店に買い物に行き、調理を行っています。今年度からはご入居者に自己選択をしていただくことを念頭におき、食事では誕生日のメニューや外食先などは意向をうかがうようにしています。入浴も毎日入る方、1日おきの方、早い時間の方、夕食後の方など一人ひとりに合わせる対応をしています。同法人のボランティア行事や映画鑑賞会、メイク教室など多彩なイベントにも参加し、地域の行事にもお誘いを受けるなど楽しい生活を送っていただいています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成22年2月18日	評価機関 評価決定日	平成22年3月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴
 ①ここは医療法人寛栄会の経営で老健カメリアを中心としてカメリア診療所、グループホームカメリア壱番館、カメリア式番館で構成されている。カメリアとは英語で椿の花のことであり、その花言葉は「長寿」である。要介護者をかかえるご家族の気持ちは、要介護者の心身の機能が衰え、介護や医療の比率が高まることである。カメリア壱番館は医療連携体制をとっており、同法人の医師と看護師が勤務する老健カメリアが近隣にあるという点で安心感がある。法人内での連携については、①職員教育として法人全体の学習会の実施。②老健カメリアからの音楽療法士の来訪。③老健内のカメリアシアターでの映画の定期的上映会。④法人全体の敬老祭(椿祭)、作品展の開催など法人の特徴を有効に活用している。理念は「自由な生活」「家庭的な生活の場」「ご家族様、地域との交流」を3つの柱として構成されている。
 ②地域との交流では、自治会関係では町のお祭りや行事に参加している。ご近所の子供たちがホームに遊びに来たり、犬の散歩の方々との交流がある。小・中学生が体験学習で3~4人來所されるので、庭の草むしり、窓拭きなど一緒に行っている。小学校の運動会に招待され参加している他、理美容院やレストランは地域の商業施設を活用している。病院もカメリア診療所(内科・心療内科)以外の診療科目については地元の医院を活用している。老健カメリアでのイベントで老健ご利用者との交流を行っている。
 ③ケアについては、法人共有のフォーマットを活用して行っている。デジタルなケアチェックシートにより問題点を抽出し、月1回の介護計画を中心としたモニタリングを行い、介護計画のうちルーチンになったものは日程表に落とし、カンファレンスで介護計画を見直すケア体制が定着している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	高齢者グループホーム カメリア壺番館
ユニット名	1階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
い					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由な生活」「家庭的な生活の場」「ご家族様、地域との交流」の3本柱の理念を立案している。玄関に掲示し、常に理念を確認し、共有・実践できるようにしている。	「自由な生活」「家庭的な生活の場」「ご家族様、地域との交流」の3本柱の理念を立案している。玄関に掲示し、常に理念を確認し、共有・実践できるようにしている。年度の目標は本部方針に沿いグループホーム独自で作成・展開している。新入社員受入れの際には必ず説明し徹底している。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店や美容室を利用したり、行事に参加させていただくなどして地域や近隣の方々との交流を図っている。また日々の散歩での挨拶などによりなじみの環境作りを行っている。	地域の商店や美容室を利用したり、自治会の行事に参加させて頂くなど地域や近隣の方々との交流を図っている。また日々の散歩での挨拶などによりなじみの環境作りを行っている。老健カメラでのイベントで老健ご利用者との交流も行っている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の運動会、地域のお祭り等の行事に招待され参加することで、地域の方々と交流し理解を得るように努めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはご入居者とそのご家族様も参加され、ホーム内での生活の報告をする中で様々なご意見をいただいている。そのご意見を検討しサービスに反映している。	運営推進会議は自治会長、民生委員、地域代表（大家さん）、包括支援センターの他にご入居者とそのご家族様も参加され、ホーム内での生活の報告をする中で様々なご意見を頂いている。そのご意見を検討しサービスに反映している。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市区町村の担当者の方と連絡、相談を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。情報をいただいた研修には積極的に参加している。	市区町村の担当者の方と連絡、相談を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。情報をいただいた研修には積極的に参加している。老健カメラの実績があり、市区町村との関係は非常に良好である。市区町村主催の研修会には参加している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人の勉強会への参加や、職員ミーティングの中での検討で、拘束のないケアの確認を行っている。	同法人の勉強会への参加や、職員ミーティングの中での検討で、拘束のないケアの確認を行っている。シルバーハラスメントに関するアンケート、自己評価を実施している。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、同法人の勉強会への参加で虐待について学び、再認識・自己確認を行っている。また接遇、言葉使いにおいても職員間で注意しあえる環境作りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や同法人の勉強会に参加し、研修内容をレポート等で職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を用い、順を追って説明し、疑問点を伺い確認を行っている。改定時には文章を発送した上で説明を行い、同意書をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会でご意見を伺うほか、ご意見箱を設置している。また重要事項説明書には苦情相談窓口を明記している。	運営推進委員会でご意見を伺うほか、ご意見箱を設置している。また重要事項説明書には苦情相談窓口を明記している。個人別に家族連絡ノートを作ってあり、統一した回答が出来るよう心がけている。ご希望については介護計画に組み込むようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員ミーティングにて職員の意見を表出できる場を持っているほか、申し送りや連絡ノートを活用するようにしている。	月一回の職員ミーティングにて職員の意見を表出できる場を持っているほか、申し送りや連絡ノートを活用するようにしている。定期面接の他に個別にも声をかけるようにしている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月二回の法人内部、各部署代表者による会議でそれぞれの部署の状況の聞き取りを行っている。また代表者が常に相談にのってもらえる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内で合同の新人研修があり隔月で学習会も実施している。また、それぞれのスキルにあった外部研修への参加の機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム対象の外部研修に参加した際、情報交換を行っている。同法人のグループホームとの交流の中で助言をもらうことも多い。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や見学でご本人と話し合う機会をもっている。また体験入居を設け、ご本人、ご家族様ともに納得してから利用できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談での来所やお電話で、ご家族の不安などをお聞きするとともに、話しやすい関係をつくれるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時に提出していただいている資料や、面談した内容を多職種で検討し、必要な支援を見極めて対応するように努めている。必要に応じて他機関とも連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活しているという意識で接しており、それぞれの方の得意分野を活かして、生き生きと生活を送って頂いている。人生の先輩として、尊敬の気持ちを忘れずに語らいの時間を大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご様子を報告するだけでなく、できるだけ外出などのお願いをしたり、買い物などに同行していただけるように提案している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に馴染みの方の面会や、ご入居前から参加している行事へ外出をお勧めしている。またご入居者同士や入居後の馴染みの関係づくりを心がけている。	入居時に馴染みの方の面会や、入居前から参加している行事へ外出を勧めている。またご入居者同士や入居後の馴染みの関係づくりを心がけている。老健カメラアでのイベントで老健ご利用者との交流を行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常ご様子などから、ご入居者同士の相性を考慮し、レク等の座席など配慮している。コミュニケーションがうまく取れない場合は職員が関わり良い関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約時に、今後も相談に応じる旨をお伝えし、来所や電話をいただけるようお話している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常のご様子や会話の中で把握に努めるほか、お話を伺い、希望や要望を確認している。意思表示が困難な方へは注意深く観察し、できるだけ把握する努力をしている。	日常の様子や会話の中で把握に努めるほか、お話を伺い、希望や要望を確認している。意思表示が困難な方へは注意深く観察し、できるだけ把握する努力をしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前にご本人、ご家族様からこれまでの生活全般を伺い、個人情報に留意して職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご様子は記録に残し、変化があった時は職員間で申し送り、必要があれば医療機関につなげている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活からアセスメントを行い課題を抽出し、ご本人、ご家族様の要望を個々に取り入れて3ヶ月毎に介護計画を作成している。	日々の生活からケアチェックシートによりアセスメントを行い課題を抽出し、月1回の介護計画を中心としたモニタリングを行い、ご本人、ご家族様の要望を個々に取り入れて3ヶ月毎に介護計画を作成している。介護計画のうちルーチンになったものは日程表に落としている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録、バイタルチェック表を参考にし、ケアカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者の状況に合わせ、ご家族の意見も取り入れ、必要と思われる支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加する他、同法人で行われるボランティア行事や映画鑑賞会などにお連れして楽しみのある生活がおくれるよう配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を確認し、かかりつけ医を決定し、定期的な受診できるように援助をしている。かかりつけ医にもグループホームでの生活上の注意点について相談している。	入居時に希望を確認し、かかりつけ医を決定し、定期的な受診できるように援助をしている。かかりつけ医にもグループホームでの生活上の注意点について相談している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の老健看護師と職員がご入居者の状態を共有している。変化があればご家族同意の上、早急に医療機関につなげるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合、情報提供書を病院に提出している。退院前にはできるだけ病院医師から話ができるように時間を調整し、退院後の生活環境の整備を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の生活や医療に対する考え方について、入居当初より確認している。ホームの終末期の方針は文章にし、ご家族様に説明している。	終末期の生活や医療に対する考え方について、入居当初より確認している。ホームの終末期の方針は文章にし、ご家族様に説明している。ターミナルケアは実施していく方針であり、看護師・介護職員による看取りの介護計画書も定型化している。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人内の救命救急委員会に委員を配置し、代表として月1回の会議に参加し内容をホームに持ちかえり申し送っている。また同法人の勉強会でも実践的な訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署にご指導いただき、年2回の防災訓練、消火訓練を行い、緊急時にスムーズに避難、誘導ができるように心がけている。	消防署にご指導いただき、年2回の防災訓練、消火訓練を行い、緊急時にスムーズに避難、誘導ができるように心がけている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけるような安易な言葉かけや対応はしないように心がけている。朝夕の申し送りはリビングで行っているため個人名は出さずに行っている。	自尊心を傷つけるような安易な言葉かけや対応はしないように心がけている。朝夕の申し送りはリビングで行っているためプライバシー保護の視点から個人名は出さずに行っている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が決定しやすい言葉かけを行うように心がけている。また日々の生活の中からご本人の希望などを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先することなく、ご入居者の意思を尊重しご本人のペースで生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着は支援が必要な方には選択のお手伝いをしている。衣類購入の際はその方によって好みの店を選んでいる。美容室は地域の店に行き、ご本人の希望に合わせてカット、カラー、パーマが可能です。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者それぞれに得意なこと、できることを活かし調理、盛り付け、配膳、洗い物等行って頂き、食への関心を高めている。楽しく召し上がれる雰囲気作りにも配慮している。	食事は独自のメニューでご利用者の希望を入れながら作成している。ご入居者それぞれに得意なこと、出来ることを活かし調理、盛り付け、配膳、洗い物等行って頂き、食への関心を高めている。楽しく召し上がれる雰囲気作りにも配慮している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、一人ひとりの通常摂取量に対しての食事量チェックを行っている。水分量が少ない方に対しては水分チェック表を記入し、不足しないよう徹底している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、見守りや介助が必要な方には付き添っている。義歯の方は夕食後、洗浄剤にて消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけや、排泄チェック表を用いて誘導、介助を行っている。ほぼ全員の方が日中夜間ともトイレにて排泄されている。	排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけや、排泄チェック表を用いて誘導、介助を行っている。ほぼ全員の方が日中夜間ともトイレにて排泄されている。トイレの認識が困難になった方へは誘導で認識をしてもらう様ケアを進めている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤に頼ることなく排泄していただけるように心がけている。朝食前の牛乳や毎日の散歩等を行い自然排便を目指している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご入居者の希望に合わせられるように、毎日13時から20時までの入浴を可能にしている。入浴したい時間帯など、一人ひとりの希望に応えられるように対応している。	ご入居者の希望に合わせられるように、毎日13時から20時までの入浴を可能にしており、夕食後に入る方もいる。入浴したい時間帯など、一人ひとりの希望に応えられるように対応している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体力を考慮し、必要な方には日中でも臥床時間を作っている。また、その日の状態によってお昼寝を勧めるなど体調の観察と併せて援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作り、誤薬には十分気をつけている。処方された薬の説明書は個人記録にファイルし、変更があった場合は申し送りを行っている。状態に変化があれば速やかに医師、看護師に報告し調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが楽しみのある生活を送っていただけるように、外出や趣味の実践のお手伝いを介護計画に記載して行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、昼食後の散歩はコースを分け、希望を伺っている。買い物の希望にも随時対応しており、ご家族同行の買い物も行っている。	毎日、昼食後の散歩はコースを分け、希望を伺っている。買い物の希望にも随時対応しており、ご家族同行の買い物も行っている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	衣類の購入や100円ショップへの買い物の際には、ご本人にお金をお渡し、ご自分で支払いをしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者が電話を希望された時には、時間を配慮しお話ができるように対応している。手紙も便箋、葉書の購入や投函の手伝いを行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれもともと静かな環境である。玄関にはできるだけ花を、廊下にはご入居者の作品を展示するなどして作品制作意欲が持てる楽しめる空間作りを行っている。	自然に囲まれもともと静かな環境である。玄関やテーブルにはできるだけ花を、廊下にはご入居者の作品を展示するなどして作品制作意欲が持てる楽しめる空間作りを行っている。堀炬燵があり、腰掛けて新聞を読むご入居者もいる。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるリビングには陽あたりの良い畳部分があり、個々に新聞を読んだり日向ぼっこをすることができるスペースとなっている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を含め馴染みの物や使い慣れた物を持ってきていただき居心地の良い空間作りをお手伝いしている。身体状況の変化によっては危険の無いように家具の配置を配慮している。	仏壇を含め馴染みの物や使い慣れた物を持ってきていただき居心地の良い空間作りをお手伝いしている。身体状況の変化によっては危険の無いように家具の配置を配慮している。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で手すりを設置し、障害物を置かないようにしている。居室の家具の配置もそれぞれの状況によって配慮し、「できること」「わかること」が継続できるように支援を行っている。			

事業所名	高齢者グループホーム カメリア壺番館
ユニット名	2階

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
い					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由な生活」「家庭的な生活の場」「ご家族様、地域との交流」の3本柱の理念を立案している。玄関に掲示し、常に理念を確認し、共有・実践できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店や美容室を利用したり、行事に参加させていただくなどして地域や近隣の方々との交流を図っている。また日々の散歩での挨拶などによりなじみの環境作りを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の運動会、地域のお祭り等の行事に招待され参加することで、地域の方々と交流し理解を得るように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にはご入居者とそのご家族様も参加され、ホーム内での生活の報告をする中で様々なご意見をいただいている。そのご意見を検討しサービスに反映している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市区町村の担当者の方と連絡、相談を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。情報をいただいた研修には積極的に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同法人の勉強会への参加や、職員ミーティングの中での検討で、拘束のないケアの確認を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、同法人の勉強会への参加で虐待について学び、再認識・自己確認を行っている。また接遇、言葉使いにおいても職員間で注意しあえる環境作りを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や同法人の勉強会に参加し、研修内容をレポート等で職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を用い、順を追って説明し、疑問点を伺い確認を行っている。改定時には文章を発送した上で説明を行い、同意書をいただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会でご意見を聞くほか、ご意見箱を設置している。また重要事項説明書には苦情相談窓口を明記している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員ミーティングにて職員の意見を出しできる場を持っているほか、申し送りや連絡ノートを活用するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月二回の法人内部、各部署代表者による会議でそれぞれの部署の状況の聞き取りを行っている。また代表者が常に相談にのってもらえる体制が整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人内で合同の新人研修があり隔月で学習会も実施している。また、それぞれのスキルにあった外部研修への参加の機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム対象の外部研修に参加した際、情報交換を行っている。同法人のグループホームとの交流の中で助言をもらうことも多い。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や見学でご本人と話し合う機会をもっている。また体験入居を設け、ご本人、ご家族様ともに納得してから利用できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談での来所やお電話で、ご家族様の不安などをお聞きするとともに、話しやすい関係をつくれるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時に提出していただいている資料や、面談した内容を多職種で検討し、必要な支援を見極めて対応するように努めている。必要に応じて他機関とも連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活しているという意識で接しており、それぞれの方の得意分野を活かして、生き生きと生活を送って頂いている。人生の先輩として、尊敬の気持ちを忘れずに語らいの時間を大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご様子を報告するだけでなく、できるだけ外出などのお願いをしたり、買い物などに同行していただけるように提案している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に馴染みの方の面会や、ご入居前から参加している行事へ外出をお勧めしている。またご入居者同士や入居後の馴染みの関係づくりを心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常ご様子などから、ご入居者同士の相性を考慮し、レク等の座席など配慮している。コミュニケーションがうまく取れない場合は職員が関わり良い関係づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約時に、今後も相談に応じる旨をお伝えし、来所や電話をいただけるようお話している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常のご様子や会話の中で把握に努めるほか、個人的にお話を伺い、希望や要望を確認している。意思表示が困難な方へは注意深く観察し、できるだけ把握する努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前にご本人、ご家族様からこれまでの生活全般を伺い、個人情報に留意して職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご様子は記録に残し、変化があった時は職員間で申し送り、必要があれば医療機関につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活からアセスメントを行い課題を抽出し、ご本人、ご家族様の要望を個々に取り入れて3ヶ月毎に介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録、バイタルチェック表を参考にし、ケアカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者の状況に合わせ、ご家族の意見も取り入れ、必要と思われる支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加する他、同法人で行われるボランティア行事や映画鑑賞会などにお連れして楽しみのある生活がおくれるよう配慮している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望を確認し、かかりつけ医を決定し、定期的に受診できるように援助をしている。かかりつけ医にもグループホームでの生活上の注意点について相談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の老健看護師と職員がご入居者の状態を共有している。変化があればご家族同意の上、早急に医療機関につなげるように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合、情報提供書を病院に提出している。退院前にはできるだけ病院医師から話ができるように時間を調整し、退院後の生活環境の整備を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の生活や医療に対する考え方について、入居当初より確認している。ホームの終末期の方針は文章にし、ご家族様に説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同法人内の救命救急委員会に委員を配置し、代表として月1回の会議に参加し内容をホームに持ちかえり申し送っている。また同法人の勉強会でも実践的な訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署にご指導いただき、年2回の防災訓練、消火訓練を行い、緊急時にスムーズに避難、誘導ができるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけるような安易な言葉かけや対応はしないように心がけている。朝夕の申し送りはリビングで行っているため個人名は出さずにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が決定しやすい言葉かけを行うように心がけている。また日々の生活の中からご本人の希望などを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先することなく、ご入居者の意思を尊重しご本人のペースで生活していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着は支援が必要な方には選択のお手伝いをしている。衣類購入の際はそれの方によって好みの店を選んでいる。美容室は地域の店に行き、ご本人の希望に合わせてカット、カラー、パーマが可能です。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご入居者それぞれに得意なこと、できることを活かし調理、盛り付け、配膳、洗い物等行って頂き、食への関心を高めている。楽しく召し上がれる雰囲気作りにも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、一人ひとりの通常摂取量に対しての食事量チェックを行っている。水分量が少ない方に対しては水分チェック表を記入し、不足しないよう徹底している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、見守りや介助が必要な方には付き添っている。義歯の方は夕食後、洗浄剤にて消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけや、排泄チェック表を用いて誘導、介助を行っている。ほぼ全員の方が日中夜間ともトイレにて排泄されている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ下剤に頼ることなく排泄していただけるように心がけている。朝食前の牛乳や毎日の散歩等を行い自然排便を目指している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご入居者の希望に合わせられるように、毎日13時から20時までの入浴を可能にしている。入浴したい時間帯など、一人ひとりの希望に応えられるように対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体力を考慮し、必要な方には日中でも臥床時間を作っている。またその日の状態によってお昼寝を勧めるなど体調の観察と併せて援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を作り、誤薬には十分気をつけている。処方された薬の説明書は個人記録にファイルし、変更があった場合は申し送りを行っている。状態に変化があれば速やかに医師、看護師に報告し調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが楽しみのある生活を送っていただけるように、外出や趣味の実践のお手伝いを介護計画に記載して行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、昼食後の散歩はコースを分け、希望を伺っている。買い物の希望にも随時対応しており、ご家族同行の買い物も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	衣類の購入や100円ショップへの買い物の際には、ご本人にお金をお渡し、ご自分で支払いをしていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者が電話を希望された時には、時間を配慮しお話ができるように対応している。手紙も便箋、葉書の購入や投函の手伝いを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれもともと静かな環境である。玄関にはできるだけ花を、廊下にはご入居者の作品を展示するなどして作品制作意欲が持てる楽しめる空間作りを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間であるリビングには陽あたりの良い畳部分があり、個々に新聞を読んだり日向ぼっこをすることができるスペースとなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を含め馴染みの物や使い慣れた物を持ってきていただき居心地の良い空間作りをお手伝いしている。身体状況の変化によっては危険の無いように家具の配置を配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造で手すりを設置し、障害物を置かないようにしている。居室の家具の配置もそれぞれの状況によって配慮し、「できること」「わかること」が継続できるように支援を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

高齢者グループホーム
カメラリア壺番館

作成日

平成22年 4月 15日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	28	ご入居者様にADL等の変化があった場合、早急に統一したケアを提供したい。	常にご入居者様一人ひとりの状況にあったケアを提供できる。	職員全員が介護計画を理解してケアを行う。変化があればすぐに暫定計画を立て、それに則した対応を行えるよう申し送りを徹底する。	H22年4月 ～ H23年3月
2	49	近隣へは頻繁に外出しているが、買い物、外食以外の外出行事を行っていない。	季節を感じていただけるような外出行事の企画、実行。	お花見、紅葉の時期に合わせて安全な外出行事を行う。	H22年4月 ～ H23年3月
3	14	法人外のグループホームとの継続的な交流が少ない。	法人外のグループホームとも交流を持ち、サービスの向上につなげていきたい。	地域包括支援センターの協力を得て、見学や意見交換への参加を行いたい。	H22年4月 ～ H23年3月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。